

2020.08.25 一部修正版

山鳥毛里づくりプロジェクト

(国宝「山鳥毛」活用基本計画)

～備前刀の最高峰「山鳥毛」で刀剣王国・岡山を復権～



令和2年3月

瀬戸内市

目 次

はじめに ～国宝「山鳥毛」活用基本計画策定の趣旨～	1
1 計画策定の背景	
(1) 「山鳥毛」購入に至る経緯	2
(2) 「山鳥毛」の価値について	3
2 「山鳥毛里づくりプロジェクト」の基本目標	
(1) 「山鳥毛」を備前刀のふるさと岡山で守る	5
(2) 文化継承の機運を高め、市民の誇りを醸成する	5
(3) 教育素材として活かし、刀職が育つまちとしての文化を育む	5
(4) 観光資源として活用を図る	6
3 「山鳥毛里づくりプロジェクト」の基本施策	
(1) 「山鳥毛」が広げる展示企画	7
(2) 児童生徒の教材としての活用施策	8
(3) 「山鳥毛」を活かす人材	9
(4) 「山鳥毛」を保有するにふさわしい施設と周辺環境	10
(5) 「山鳥毛」を活かす観光施策	11
4 施策実施効果と指標	13
5 基本計画検討組織	14
参考資料	15

はじめに ～国宝「山鳥毛」活用基本計画策定の趣旨～

日本刀の中でも、国宝、重要文化財に指定されている名刀の多くが産出された、備前国。中でも、古くから多くの刀工が作刀を続け、備前刀の中心的な生産地であった瀬戸内市長船地区は、備前刀のふるさとと呼ぶにふさわしい場所と言え、現在まで作刀が続く日本刀の聖地とも称されています。

備前刀は、国宝の総数、111口のうち、実に47口を、そして重要文化財では、総数699口のうち、289口を占めており(表1参照)、質・量ともに他地域を圧倒しています。

		国 宝		重要文化財		合 計	
		口数	%	口数	%	口数	%
総 数		111	100	699	100	810	100
岡山産	備前刀	47	42	289	41	336	41
	備中刀	5	5	47	7	52	6
	合 計	52	47	336	48	388	48

表1 国宝・重要文化財に占める備前刀・備中刀の割合
出典：『長船町史 刀剣編通史』

福岡一文字派の作とされ、備前刀の最高傑作の一口ともいわれ

る国宝『太刀無銘一文字(山鳥毛)』(以下「山鳥毛」という)の購入については、所有者(当時)から瀬戸内市に話が寄せられたのを機にはじまった「山鳥毛里帰りプロジェクト」により、瀬戸内市が数多くの国内外の方の支援を得て、達成することができました。

山陽道と吉井川が交差する交通・流通の要衝であるという地の利を得た「福岡の市」により栄えた「長船」は、良質の砂鉄や炭を吉井川の川上から得、吉井川や山陽道を通じて日本各地に日本刀を供給した日本刀の生産地としても栄えました。ここを拠点とし、鎌倉時代に隆盛を極めた福岡一文字派が生み出した太刀が、縁あって戦国武将として名高い上杉謙信の愛刀となり、その後長い時間を経て国宝となったものが「山鳥毛」です。

この「山鳥毛」を所有した瀬戸内市は、これを市民のみなさんの誇りとするとともに、瀬戸内市で大切に継承されてきた日本刀文化をこの地域で守り、その文化を未来につなぐ責務を負います。またこれは、刀剣王国・岡山の将来を担うものであり、国宝を得るという事は、国民の宝を預かって守るという崇高な営みでもあり、「山鳥毛」をはじめとする備前刀を適正に守り伝え、備前刀の価値をより広く国内外の多くの人々に広めていく責務を負うことにもなります。

このため、平成30年10月に策定された「山鳥毛里帰りプロジェクト基本方針」を踏まえ、さらに山鳥毛里帰りプロジェクトを進めていく中で市内外の方からいただいた意見等を参考に本基本計画を策定します。

1 計画策定の背景

(1) 「山鳥毛」購入に至る経緯

山鳥毛の購入に至る経緯については、表2のとおりです。

表2 山鳥毛購入経緯一覧

年	月 日	内 容
平成30年 (2018)	1月29日	所有者(当時)から瀬戸内市に購入の打診
	4月23日	瀬戸内市議会総務文教委員会において購入を表明
	5月	国宝「山鳥毛」購入活用にかかる基本方針を策定
	5月28日	瀬戸内市議会(臨時議会)において評価委員会予算を可決
	6月7日	山鳥毛購入における瀬戸内市外部評価委員会を設置・開催
	6月15日	第2回山鳥毛購入における瀬戸内市外部評価委員会を開催 山鳥毛購入における瀬戸内市外部評価委員会が意見書を提出 経済波及効果を含めた資産価値は5億円以上と評価
	6月26日	瀬戸内市議会において資金調達経費などを盛り込んだ購入経費を可決。
	8月30日	山鳥毛写しを作成するため山鳥毛を刀匠が熟覧
	9月8・9日	瀬戸内タウンミーティングで説明及び意見交換
	9月13日～ 10月14日	岡山県立博物館の特別陳列の機会に資金調達をPR
	10月	国宝「山鳥毛」購入活用にかかる基本方針を基に山鳥毛里帰りプロジェクト基本方針策定(改定)
	10月23日	山鳥毛里帰りプロジェクトに係るクラウドファンディング開始発表記者会見開催
	11月1日	資金調達(クラウドファンディング型ふるさと納税等)を開始(目標額6億円) 以後、各所でPR
	11月10日	山鳥毛里帰り応援サポーター研修会を開催(以後、12月まで計6回開催)
11月17日	山鳥毛里帰りプロジェクトシンポジウムを開催	
12月1日	山鳥毛プロジェクト会議を設置・開催	
平成31年 (2019)	1月28日	資金調達期限を1月末から3月末に延長
	2月16日	山鳥毛サポーターミーティングを開催
	3月2日	第2回山鳥毛プロジェクト会議を開催

	3月3日	市民らによる「山鳥毛里帰り応援団」が発足
	3月20日	瀬戸内市議会で資金調達を平成31年度3月末まで延長するための予算等を可決
令和元年 (2019)	9月	パンフレット、ポスターをリニューアル
	9月29日	山鳥毛サポーターミーティングを開催
	10月1日	一口佩刀第1次募集を開始(10月31日まで) 山鳥毛アイデアコンテスト募集開始(11月8日まで)
	10月7日	第3回山鳥毛里帰りプロジェクト会議を開催
	10月8日～ 10月14日	備前長船刀剣博物館にて山鳥毛を特別陳列
	11月15日	一口佩刀第2次募集を開始(12月31日まで※1月15日まで延長)
	11月17日	講演会「日本一華やかな「備前刀」」を開催
	11月29日	山鳥毛アイデアコンテスト審査・入賞者決定
	12月19日	瀬戸内市議会において備前長船刀剣博物館の収蔵庫等改修費を減額する資金調達目標額の変更(目標額5億1300万円)を可決
	令和2年 (2020)	1月25日
1月26日		目標額の達成 ・寄附金合計額 802,392,156円 (必要経費を除く刀の購入費等に充当できる額※) 568,389,156円 ・寄附件数 14,809件
1月27日		目標額達成発表記者会見開催
2月1日		一口佩刀第3次募集開始(2月29日まで※3月31日まで延長)
2月7日		所有者と山鳥毛売買仮契約の締結
3月17日		瀬戸内市議会にて購入の議案を可決 所有者との仮契約が本契約となる
3月22日		引き渡しを受け山鳥毛の所有権が市となる
3月31日		資金調達(クラウドファンディング型ふるさと納税等)の終了 ・寄附金合計額 881,792,396円 (必要経費を除く刀の購入費等に充当できる額※) 632,127,396円 ・寄附件数 個人17,245件 企業・団体153件

※令和元(2019)年4月以降の経費については経費率を用いて算出した額であり、確定額とは異なります。

(2) 「山鳥毛」の価値について

文化財登録名は『太刀 無銘一文字 山鳥毛(やまとりげ)』。昭和27年3月29日に国宝に指定された。刃長が79.1cm、反りが3.3cm、重さが1.06kg。無銘ではあるが、その作風から鎌倉時代中期に作られた備前刀で福岡一文字派の作と考えられています。

戦国武将上杉謙信・景勝の愛刀として名高く、国宝『上杉家文書』中の「上杉景勝自筆腰物目録」に「山てうもう」と記されていることから、「さんちょうもう」と呼ばれる¹⁾。「山鳥毛」の号の由来は、その変化にとんだ激しい刃文が、「山鳥の羽毛のようだから」とも「山野が燃えるようだから」ともいわれています。

「拵え」は室町末期の作で鐔がなく、上杉家以外では類を見ないといわれ、この拵えと併せて国宝に認定されています。

日本刀研究者や愛刀家等からは、「その造形・伝来ともに、備前刀の最高峰と呼ぶにふさわしい」などと評されています。

平成30年6月に提出された山鳥毛購入における瀬戸内市外部評価委員会の意見書では、「国宝「山鳥毛」が、瀬戸内市長船町を拠点とした「福岡一文字派」の技による名刀であること、また、瀬戸内市が国宝「山鳥毛」を購入保有することの意義や、その資産価値にかかる評価、さらには、当該国宝の教育文化的価値や観光等の産業活動への影響など、波及効果も含めて総合的に評価した結果、5億円以上の価値を有するものと評価した。」とされています。

○山鳥毛について 【文化庁国指定文化財等データベースより】

名称：太刀（無銘一文字（山鳥毛））たち（むめいいちもんじ（やまとりげ））

品質・形状

鑄造（しのぎづくり）、庵棟（いおりむね）、鋒（きっさき）猪（い）首（くび）となり、腰反り高く、踏ん張りがある。鍛は板目、淡く乱映り立つ。刃文は重花調の大丁子乱れでほとんど鑄（しのぎ）におよび、足葉頻りに入り変化極まりなく、腰元、物打下は特に沸（にえ）強く金筋かかり、帽子は表は張って大きく乱込んで返り、掃きかけかかり、裏は乱れ込みとなる。表裏に棒樋を茎（なかご）先まで掻き流す。茎は生ぶ。勝手下がりの鑢（やすり）目がつき、銘はない。

国宝指定：昭和27（1952）年3月29日

解説文

日光一文字と並ぶ作で、備前一文字派盛期の作風と力を存分に発揮した太刀である。刃文が最も大模様に乱れて刃中の変化に富んだ作である。号は、一説にその刃文が山鳥の羽毛に似ているからというが、他にも説があって明らかでない。上杉謙信および景勝の愛刀として上杉家に伝来したもの。

¹⁾ お刀の号の読み方は諸説あるが、岡山県立博物館では、国宝『上杉家文書（もんじょ）』中の「上杉景勝自筆腰物（こしもの）目録」に「山てうもう」と記されていることから、「さんちょうもう」との読みに拠りどころがあるとしている。

2 山鳥毛里づくりプロジェクトの基本目標

(1) 「山鳥毛」を備前刀のふるさと岡山で守る

「山鳥毛」を県内で永続的に保存、活用するために、備前刀の中心的生産地である瀬戸内市長船町に位置する備前長船刀剣博物館で保有し、専門の学芸員による国宝・重要文化財の公開に関する取扱要項等に準じた適切な管理が必要です。

このため、「山鳥毛」を保有するにふさわしい施設改修を行います。また、備前長船刀剣博物館の学芸員を確保し、国宝を取り扱うことができる人材を育成します。

さらに、日本刀文化を守るため、市内外の個人や団体、企業と協働して山鳥毛や日本刀製作技術の保存等を支援する取組を行います。

(2) 文化継承の機運を高め、市民の誇りを醸成する

国宝の中でも、極めて価値が高いとされる「山鳥毛」は、国宝中の国宝とされています。この貴重な美術工芸品である日本刀が、瀬戸内市の歴史と文化の中で産み出されたことの意義と価値を伝えるためには、よく練られた展示企画が重要となります。

そこで、市民に国の宝を預かっているという理解を得られるような、また、多くの方々に愛でられる「山鳥毛」という文化財を郷土の誇りと感じていただけるような展示や鑑賞とともに学びの機会について計画を進めます。

こうした企画を通して、「山鳥毛」が瀬戸内市という地域の中で生まれたことを広く世界に発信し、瀬戸内市の認知度が高まることによって、市民のシビックプライドが醸成され、この誇るべき郷土文化を未来に向けて継承する機運を高めます。

(3) 教育素材として活かし、刀職が育つまちとしての文化を育む

世界に誇れる国宝という文化財を身近な博物館で目にすることは、極めて貴重な教育機会です。国が国民の宝と認める文化財が、他にもない瀬戸内市の先人によって産み出されたことを、実物を間近に見ながら感じ、学べることは、子どもにとってかけがえのない郷土学習となります。

また、備前長船の地で、日本刀の魅力に魅せられ、連綿と続く作刀の歴史を引き継ぐ刀職にとって、この「山鳥毛」の存在がもたらす歴史的かつ技術的な刺激は、計り知れないものがあり、現在も作刀に励む刀職の技に、「山鳥毛」が有形無形に影響を及ぼし、新し

く作品が生みだされることが期待されます。さらにその新しく生みだされた作品に感動を覚えた人が、次代の伝承の担い手となるような取組を行います。

(4) 観光資源として活用を図る

近年、わが国でも観光のあり方や価値が見直されています。それは、単に産業としての効率性や収益性を追い求めるのではなく、国際間の相互理解の促進や、旅行者を迎える観光地の人々が、地域への誇りと愛着を感じ、地域社会の持続的な発展につながるような取り組みを目指しているからです。

そのために、文化財や芸術作品の持つ役割は極めて大きいものがあります。ときに、文化や芸術を経済産業の道具にすべきではないという議論がなされます。しかし、その土地にしかない優れた文化財や芸術作品に心を惹かれ、目的地を決める人々は少なくありません。だからこそ、観光施策という取り組みにも、文化や歴史を活かす力が求められます。

瀬戸内市では、「山鳥毛」の魅力を十分に活かすために、文化財保護と観光振興が緊密に連携し、来訪者に感動と満足をもたらす歴史文化資源を活用した観光拠点づくりを進め、交流人口や関係人口の増加を図ります。また、瀬戸内市でしか体験・体感することのできないオンリーワンの観光商品の開発に尽力します。

3 「山鳥毛里づくりプロジェクト」の基本施策

(1) 「山鳥毛」が広げる展示企画

a) 短期的施策

備前長船刀剣博物館で、市民はもちろん山鳥毛購入を支援していただいた方等に広く公開します。公開時期については、梅雨時期や夏季など温湿度が文化財に適さない時期を除くなど適切な管理に留意します。

また、山鳥毛や日本刀への理解を深める体験教室を民間と協働して開発します。

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
山鳥毛の公開	特別陳列	特別展示 (秋以降1回)	特別陳列(春頃) 特別展示(秋頃)
山鳥毛をテーマにした体験教室	開発	開発 試験実施	開発 実施

b) 中長期の展望

継続して市民が身近に見ることができるよう年1回以上特別陳列を行います。

また、国宝刀剣類の展示は年間60日までと定められているため、備前長船刀剣博物館での山鳥毛をテーマにした特別展示は隔年とし、特別展示を開催しない年には他館へ貸し出すことで、他の国宝や重要文化財などを相互貸借し、数多くの優れた作品を身近に観覧できる特別展示を行います。

さらに、山鳥毛が展示されていない時でも山鳥毛について学ぶことができるよう、バーチャルリアリティ(VR)や拡張現実(AR)等新たな科学技術等を用いた展示システムを整備します。

なお、展示企画については、年間を通して幅広い世代がターゲットとなるよう、各展示のメインターゲットに即したテーマやアニメやゲーム等他分野と連携するなど工夫した展示を行います。

将来的には、この地で生まれた国宝や重要文化財等に指定されている備前刀が集うような展示を目指します。このためには、施設の充実や学芸員の確保、資質の向上など体制整備が必要になります。

山鳥毛や日本刀への理解を深めるため、体験教室を継続して民間と協働して開発、ブラッシュアップし、ターゲットに応じた体験教室メニューを揃えて実施します。

項目	中期	長期
山鳥毛の特別陳列	毎年	毎年
山鳥毛をテーマにした特別展示	隔年	隔年
山鳥毛との相互貸借による特別展示	隔年 ※上記特別展未開催年度	隔年 ※上記特別展未開催年度
科学技術を用いた展示システム	検討	設置
山鳥毛をテーマにした体験教室	開発及び実施	開発及び実施

(2) 児童生徒の教材としての活用施策

a) 短期的施策

山鳥毛公開の機会等に備前長船刀剣博物館に市内の小中学校が来館しやすいよう交通手段の確保を行います。

また、市内の小中学校と連携し、地域学習の機会等に備前長船刀剣博物館の学芸員や市内で日本刀製作に関わる職人を派遣する「出前授業」を行い、児童生徒が日本刀に興味を持ち、理解を深めるようにします。

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
交通手段の確保	バス等借上料の確保	バス等借上料の確保	バス等借上料の確保
出前授業の開催	学校等と連携協議	試行	実施

b) 中長期の展望

交通手段の確保や出前授業の開催を継続します。

児童生徒が学んだ成果を発表する場を設け、児童生徒の学びが地域に還元されるときともに次の世代に引き継がれるようにします。

項目	中期	長期
交通手段の確保	バス等借上料の確保	バス等借上料の確保
出前授業の開催	実施 プログラムの見直し	実施
学びの活用	学習プログラムの作成 発表の場づくり	学習プログラムの作成 発表の場づくり 学習成果資料整理

(3) 「山鳥毛」を活かす人材

a) 短期的施策

備前長船刀剣博物館を核とした日本刀の聖地づくりを進めることができるためには、文化財を有効活用する推進体制の整備が欠かせません。このため、文化財担当部局の体制の充実とともに、文化財に関わる人材の育成や確保が必要となります。

国宝を扱えるとともに、備前刀を研究し、その魅力を発信することができる技能や知識を有する学芸員を育成します。

また、備前長船刀剣博物館だけではなく、その周辺の日本刀関連史跡等を案内できるボランティアガイドの育成を図ります。

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学芸員の育成	研修会への参加 資料調査	研修会への参加 資料調査	研修会への参加 資料調査
ボランティアの育成	育成内容の検討	養成講座の開催	組織の設置

b) 中長期の展望

文化財担当部局の体制の充実とともに、業務が円滑に引き継がれるよう計画的に学芸員の確保や育成を行います。また、ボランティアガイド組織が連綿と引き継がれるように支援します。また、外国人観光客に対応するため、多言語に対応できる人材の確保を進めます。

さらに、日本刀製作技術の保存継承を図るため、日本刀製作技術に関わる職人の育成や後継者確保のための施策を図ります。

項目	中期	長期
学芸員の育成	計画的な人材の確保 国宝取扱者研修会等への参加 資料調査	計画的な人材の確保 国宝取扱者研修会等への参加 資料調査
ボランティアの育成	新たな人材確保 資質の向上	新たな人材確保 資質の向上
多言語対応人材の配置	新たな人材確保 多言語対応の検討	多言語対応
職人の育成	人材の確保や技術向上支援施策の検討、仕組みづくり	人材の確保や技術向上への支援

(4) 「山鳥毛」を保有するにふさわしい施設と周辺環境

a) 短期的施策

備前長船刀剣博物館は昭和 58 年に開館し、平成 16 年にリニューアルしていますが、老朽化が進んでいるため、展示室や防火設備等の改修を行い、展示物が適切に公開できる環境を整えます。また、他が所有、保管する国宝や重要文化財の貸借が容易となる公開承認施設を目指した施設改修、市内外や海外からの来館を促進するための施設環境や周辺整備の検討を行います。

項目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
施設整備	展示室等の改修 国宝等展示ケース の購入	公開承認施設に向け た検討	公開承認施設に向け た検討
案内板の設置	周辺周遊導線の検討	周遊促進案内看板 の検討	周遊促進案内看板 の設置
サービスの向上	キャッシュレス対応 の検討 展示表記の多言語化 検討	キャッシュレス対応 の拡充 展示表記の多言語化 検討・実施	キャッシュレス対応 展示表記の多言語化 拡大
交通手段の確保	交通手段の協議	特別展でのシャトル バス運行	特別展でのシャトル バス運行
駐車場の確保	臨時駐車場の協議	臨時駐車場確保 新たな駐車場の検討	臨時駐車場確保 新たな駐車場の検討

b) 中長期の展望

文化庁等関係機関と協議を行いながら収蔵庫の増設、搬出搬入口の設置等の改修を行い、公開承認施設²⁾の認定を受けるように進めます。

また、観光客等の更なる利便性を確保し、周辺地域全体で日本刀の聖地を感じることができるよう地域整備を検討し、魅力ある地域づくりを図ります。

項目	中期	長期
施設整備	公開承認施設に向けた改修	公開承認施設に向けた改修 公開承認施設の認定
地域整備の検討	地域住民等とのワークショップ の開催、地域整備構想の策定	地域整備計画の策定、計画に沿 った整備の実施
交通手段の確保	交通手段の確保	交通手段の充実
駐車場所確保	臨時駐車場確保 新たな駐車場の協議	新たな駐車場確保

- 2) 博物館や美術館などの国宝・重要文化財の所有者（管理団体を含む）以外の者が、当該文化財を公開しようとする場合、文化庁長官の許可が必要とされていますが、文化財の公開活用の観点から、文化財の公開に適した施設として、あらかじめ文化庁長官の承認を受けた場合、公開後の届出で足りることとされています。（文化財保護法第 53 条）この承認を受けた施設を「公開承認施設」と呼んでいます。（文化庁ホームページより引用）

(5) 「山鳥毛」を活かす観光施策

a) 短期的施策

観光PR資材等へ山鳥毛を掲載し、瀬戸内市の魅力を発信します。また、観光事業者やマスメディアと山鳥毛の展示と連携したPRを行い、観光商品づくりの促進や認知度の向上を図ります。

また、インバウンドの拡大を図るため、関係団体・関係機関と連携し、既存事業の中で山鳥毛の展示機会を活かし、瀬戸内市のインバウンド向けの観光PRや観光商品づくりの促進を図ります。

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
認知度の向上	マスメディアへの情報提供 Webを活用した情報発信	マスメディアへの情報提供・掲出 観光パンフレット等への掲載 Webを活用した情報発信	マスメディアへの情報提供・掲出 観光パンフレット等への掲載 Webを活用した情報発信
観光商品造成促進	観光事業者への情報提供	観光事業者への情報提供	観光事業者への情報提供 民間等と連携した観光商品の造成
展示と連動した観光PR等	—	特別展のPR	特別展のPR

b) 中長期の展望

山鳥毛の統一的なイメージづくりを行い、地域への掲出やメディア等に露出するなど山鳥毛を日本刀の聖地としてのメインアイコンとしてPRに活用します。さらに、山鳥毛は、国宝の刀剣類の中でも特に特徴的であり、PRアイコンとして活用しやすいため、民間事業者との協働により山鳥毛をイメージした商品展開を図ります。

国内観光振興における施策及びインバウンド施策を発展的に継続させることによ

り、瀬戸内市の更なる魅力発信、魅力のある観光商品づくりの促進を図ります。

さらに、備前長船刀剣博物館や日本刀関連地をユニークアベニュー³⁾として活用することを検討します。

項目	中期	長期
統一したイメージづくり	イメージの設定 イメージを活用したPR	イメージを活用したPR
イメージを活用した商品づくり	商品の開発支援	商品の開発及び販売支援
公開の機会を活用した観光商品づくり	観光PR及び商品づくり支援	観光PR及び商品づくり支援
新たな誘客促進	ユニークアベニューの検討	ユニークアベニューの展開

³⁾ ユニークアベニューとは、歴史的建造物、文化施設や公的空間等で会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと。

4 施策実施効果（数値目標）

施策実施に伴い見込まれる効果については、短期的施策の最終年度（令和4年度）及び中期となる事業開始から5年後（令和6年度）の数値目標を次のとおりとします。

項目	平成30年度 (実績)	令和4年度	令和6年度
備前長船刀剣博物館の来館者数(人)	37,046	42,000	45,000
備前長船刀剣博物館入館料収入 (千円)	12,712	16,800	17,200
備前長船刀剣博物館に来館した市内 小中学校数(校)	4	8	12
日本刀関連出前授業数(回)	0	4	12
国宝等の取扱者研修を受講した学芸 員数(人)	0	1	1
市内に居住もしくは工房を構える日 本刀製作に関わる職人数(人)	10	10	12
海外からの観光客数(人)	2,345	2,900	3,200
「山鳥毛」に関する旅行商品数	0	10	15
市民まちづくり意識調査「すばらしい 自然や景観、伝統、歴史、文化が引き 継がれたまち」の実感度で「そう思う」 と回答した割合(%)	20.1	23.0	25.0

5 基本計画検討組織

山鳥毛里帰りプロジェクト会議（H30～R1 年度）

委員長	白井 洋輔	岡山県文化振興審議会会長
委員	川崎 泰	元備前長船刀剣博物館館長
委員	青木 盛家	瀬戸内市内刀工代表
委員	神坂 俊規	瀬戸内市社会教育委員会委員長
委員	西井 洋之	瀬戸内市文化財保護委員会委員
委員	廣畑 周子	瀬戸内市婦人協議会会長
委員	元浜 祥一	瀬戸内市商工会会長
委員	石田 一成	瀬戸内市観光協会会長
委員	桜田 俊司 岡本 克巳	瀬戸内市校長会代表（H30 年度） 瀬戸内市校長会代表（R1 年度）

国宝「山鳥毛」購入活用プロジェクトチーム（H30～R1 年度）

総括	薮井 慎吾	瀬戸内市教育委員会教育次長
副総括	三浦 一浩 松尾 秀明 片山 洋一	瀬戸内市総合政策部長（H30 年度） 瀬戸内市総合政策部長（R1 年度） 総合政策部参与
チーム員	入江 隆晴 岡田 誠 難波 利光 嶋田 学 岡崎 清吾 頓宮 忍 今吉 崇文 勝本 眞一	瀬戸内市総務部長（H30 年度） 瀬戸内市総務部長（R1 年度） 産業建設部長 教育委員会参与（H30 年度） 企画振興課長 商工観光課長 社会教育課長（H30 年度） 社会教育課長（R1 年度）
事務局		備前長船刀剣博物館（H30 年度） 社会教育課（R1 年度）

【参考資料】

■山鳥毛里帰りプロジェクト寄附実績

目 標 金 額 (A)	513,090,000円
寄 附 件 数	個人：17,354件、団体・企業：154件
寄 附 金 合 計 額	880,956,472円
必要経費を除く 刀の購入費等に充当 できる額 (B)	644,013,267円
達 成 率 (B/A)	125.5%

■備前長船刀剣博物館「特別陳列 国宝「太刀 無銘一文字（山鳥毛）」実績

会 期	令和元年10月8日（火）～14日（月）7日間 ※12・13日は開館時間を午後8時まで延長 ※秋季特別展「一文字と長船」の会期内に開催
入 館 者 数	計5,541人 ※（日平均791.57人） ※日最高入館者数1,350人（10月13日）

【過去の主な展覧会実績】

◇夏期特別展「エヴァンゲリオンと日本刀展」

会 期：平成24年7月14日～9月17日（66日間）

入館者数：47,045人（日平均／713人、日最高／1,963人）

◇特別展「備前刀剣王国」

会 期：平成27年1月29日～3月27日（50日間）

※国宝「太刀 銘 正恒」展示期間は3月4日～27日（21日間）

入館者数：8,132人（日平均／163人、日最高／528人）

※国宝展示期間中：4,040人（日平均／192人、日最高528人）